

し しん じゅう に し もん きょう よう かい だい じゃ たい じ 四神十二支紋鏡が妖怪・大蛇を退治!?

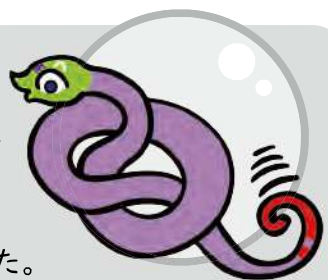
すい 隋時代末～とう 唐時代初め頃（6世紀末～7世紀）の伝奇小説『古鏡記』には、四神と十二支の紋様が施された鏡が妖怪退治の「古鏡」として登場します。物語は、主人公の一人である王度が仕えていた師から妖怪を寄せ付けない⁽¹⁾ 古鏡を譲り受け、赴いた先で数々の妖怪・変化を退治するストーリーとなっています。ここでは干支「巳 / 蛇」にちなみ、大蛇退治のエピソードを要約してご紹介します。 ※(1)「持此則百邪遠人」

「古鏡」の妖怪・大蛇退治（『古鏡記』一部要約）

たいぎょう 大業九年（613）の秋、王度は長官として地方の役所に赴任した。役所の前には幹の太いナツメの古木があり、これを祀らないとたちまち災いが起こるとされていた。王度は、この木に妖怪が取り憑いていると思い、ひそかに鏡を掛けて置いた。

その夜、王度は役所の前に轟く雷鳴のような大きな音で起き上がり、見ると風雨と暗闇のなかで何かが木にまとわりついてうごめき、稲光が輝くと急に上ったり下ったりしていた。

翌朝、木の下には紫の鱗に赤い尾、緑の頭に白い角、額に「王」の文字をもった一匹の大蛇が体に傷を受けて死んでいた。王度は鏡を収め、役人に命じて城門の外に蛇を運んで焼かせた。木を掘り起こすと、地中には大蛇がとぐろを巻いて巣くった跡があり、すべて始末すると怪しいことは起こらなくなった。



●『古鏡記』に記された鏡の特徴

『古鏡記』には妖怪退治の「古鏡」の特徴が下の表1のように詳しく描写され、王度は「普通の鏡とはわけがちがう⁽²⁾」、「霊物」と評価しています。

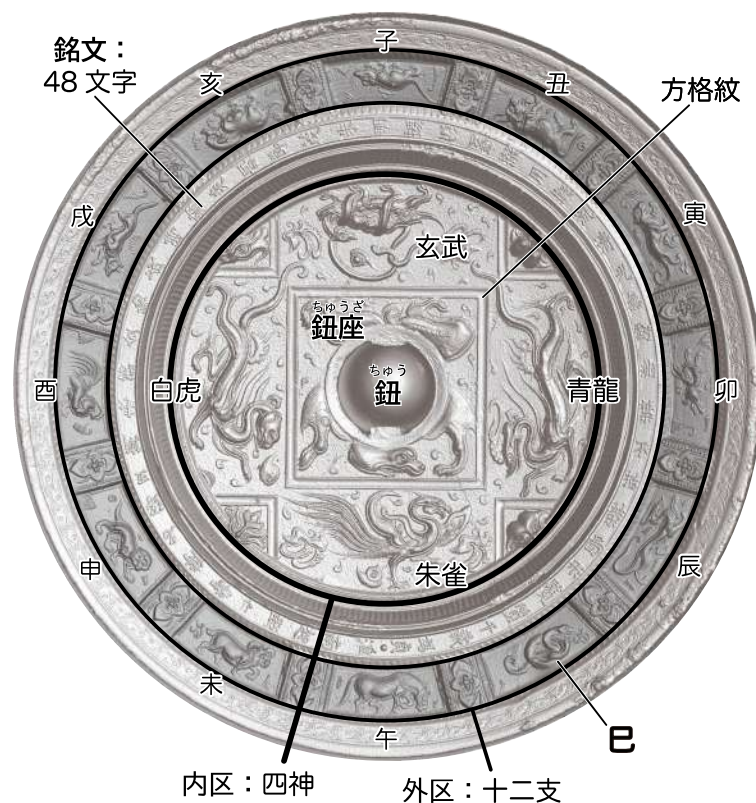
※(2)「此則非凡鏡之所同也」

表1 鏡の特徴比較表

	『古鏡記』の「古鏡」	当館の四神十二支紋鏡
直径	八寸（約24cm※） ※一寸＝約3cm（唐小尺）	24.8cm
鈕	伏せた麒麟の形	鈕：半球形 鈕座：獣紋
紋様	鈕の周りに四角形	内区：方格紋
	亀・龍・鳳・虎を四方に配置	内区：四神 〈玄武・青龍・朱雀・白虎〉
	八卦	なし
	十二支の位置に動物を配置	外区：十二支の動物像
銘文	二十四字・隸書 （二十四気の象形を表現）	帯圈：48文字・楷書

当館所蔵の四神十二支紋鏡と比較すると、ほぼ同径であり、方格紋、四神と十二支の動物の紋様、銘文と概ね要素が共通します。物語の成立時期は、ちょうど本鏡のような四神十二支紋鏡が存在する時期（7世紀前葉）と重なっており、同時代の鏡を小説の「古鏡」のモデルとしたとみられます。物語における四神や十二支などの「古鏡」の詳細な紋様描写について、妖怪を寄せ付けない特別な鏡として印象づけるための表現だとすれば、鏡の紋様の持つ魔除けの効能は当時の人々が一般的に知るところだったといえます。

【『古鏡記』の典拠】内田泉之助・乾一夫 1971『唐代伝奇』（新釈漢文大系 第44巻）明治書院



四神十二支紋鏡（当館所蔵）

令和6年度冬季スポット展示

【解説資料】
令和7年
1月4日（土）～3月9日（日）

鏡が妖怪・大蛇を退治!?
干支 令和7年 巳
み / シ



千石コレクション
（図録184）

し しん じゅう に し もん きょう
四神十二支紋鏡

隋－唐時代 / 7世紀
径：24.8cm 重：2,132g



兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

〒679-0106 兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1（兵庫県立フラワーセンター内）
TEL：0790-47-2212 FAX：0790-47-2213 ホームページ：https://www.hyogo-koukohaku.jp/kodaikyou/

十二支「巳」の動物 蛇（ヘビ）

ホームページ
QRコード

ブログ
QRコード

Instagram
QRコード

主催：兵庫県立考古博物館加西分館
後援：兵庫県・兵庫県教育委員会

1. 「干支」を「えと」と呼ぶけれど、「干支」って何？

私たちは「えと」と聞くと、「ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、い」といった12種の動物をイメージしますが、元々の意味は違いました。

「えと」は漢字で「干支」と書き、「かんし」とも読み、「十干（じっかん）」と「十二支（じゅうにし）」の2つの語を組み合わせた「十干十二支（じっかんじゅうにし）」を省略した単語です。

次のように、十干は10種、十二支は12種の文字で構成されます。

じっかん 十干	こう 甲	おつ 乙	へい 丙	てい 丁	じゅつ 戊	き 己	こう 庚	しん 辛	じん 壬	き 癸	10種		
じゅうにし 十二支	し 子	ちゅう 丑	いん 寅	ぼう 卯	しん 辰	し 巳	ご 午	び 未	しん 申	ゆう 酉	じゅつ 戌	がい 亥	12種

2. 「干支（かんし）」で表すもの

この十干と十二支をそれぞれ順番に組み合わせると、「甲子（こうし）」にはじまって、「癸亥（きがい）」に終わる、60とおりの組み合わせ、「六十干支」ができます。（表1）

古代中国の商（殷）の時代（約3,500年前）には、この六十干支を使って60日で一巡する日付を表し、後には方位や年などを表すようになります。この干支を使って年を表す方法は、日本には日本書紀の記載や出土品などから古墳時代（約1,500年前）頃には伝わったと考えられています。ちなみに、干支は60年で一巡し、暦（こよみ）が元に還るので「還暦（かんれき）」となります。

表1 干支の順番表

		十二支（1巡目）												十二支（2巡目）												十二支（3巡目）												十二支（4巡目）												十二支（5巡目）																	
		子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥																		
十 干	甲	1	こうし／きのえね										11	こうじゅつ／きのえいぬ										21	こうしん／きのえさる										31	こうご／きのえうま										41	こうしん／きのえたつ										51	こういん／きのえとら									
	乙	2	いっちゅう／きのとうし										12	いつがい／きのとい										22	いつゆう／きのととり										32	いつぴ／きのとひつじ										42	いっし／きのとみ										52	いつぼう／きのとう									
	丙	3	へいいん／ひのえとら										13	へいし／ひのえね										23	へいじゅつ／ひのえいぬ										33	へいしん／ひのえさる										43	へいご／ひのえうま										53	へいしん／ひのえたつ									
	丁	4	ていぼう／ひのとう										14	ていちゅう／ひのとうし										24	ていがい／ひのとい										34	ていゆう／ひのととり										44	ていぴ／ひのとひつじ										54	ていし／ひのとみ									
	戊	5	ぼしん／つちのえたつ										15	ぼいん／つちのえとら										25	ぼし／つちのえね										35	ぼじゅつ／つちのえいぬ										45	ぼしん／つちのえさる										55	ぼご／つちのえうま									
	己	6	きし／つちのとみ										16	きぼう／つちのとう										26	きちゅう／つちのとうし										36	きがい／つちのとい										46	きゆう／つちのととり										56	きび／つちのとひつじ									
	庚	7	こうご／かのえうま										17	こうしん／かのえたつ										27	こういん／かのえとら										37	こうし／かのえね										47	こうじゅつ／かのえいぬ										57	こうしん／かのえさる									
	辛	8	しんび／かのとひつじ										18	しんし／かのとみ										28	しんぼう／かのとう										38	しんちゅう／かのとうし										48	しんがい／かのとい										58	しんゆう／かのととり									
	壬	9	じんしん／みずのえさる										19	じんご／みずのえうま										29	じんしん／みずのえたつ										39	じんいん／みずのえとら										49	じんし／みずのえね										59	じんじゅつ／みずのえいぬ									
	癸	10	きゆう／みずのととり										20	きび／みずのとひつじ										30	きし／みずのとみ										40	きぼう／みずのとう										50	きちゅう／みずのとうし										60	きがい／みずのとい									

4. 日本で「干支」を「えと」と呼ぶ理由

日本では、「陰陽（いんよう）」と「五行（ごぎょう）」という古代中国の考え方に当てはめて、十干をそれぞれ呼んでいました。（表3）

陰陽とは、この世の全ては「陽」と「陰」の2つの状態に分けられるという考え方です。そして五行とは、この世の事柄は「木・火・土・金・水」の5つの要素の変化により生じるという考え方です。この5つの要素は陰陽に分かれ、「陽」と「陰」をそれぞれ「兄（え）」・「弟（と）」と呼び、これを組み合わせで「甲」を「木の兄（きのえ）」、「丁」を「火の弟（ひのと）」のように表しました。「えと」という呼び方はこの「兄弟（えと）」に由来します。

表3 陰陽五行と十干の表記・呼称の組み合わせ

		五行				
		木	火	土	金	水
陰陽	兄	甲	丙	戊	庚	壬
	え	きのえ	ひのえ	つちのえ	かのえ	みずのえ
	弟	乙	丁	己	辛	癸
	と	きのと	ひのと	つちのと	かのと	みずのと

「えと」って何？

3. 十二支に動物をあてはめた「十二生肖（じゅうにせいしょう）」

十二支の「子、丑、寅…」は、十干と組み合わせて日付や年、月、時刻、方位を示すもので、本来動物を意味しませんでした。（図1）それが、遅くとも秦時代（約2,200年前）になると、十二支にそれぞれ動物が割り当てられるようになり（※1）、後漢時代（約1,900年前）には現在と同じ動物にまとまってきます（※2）。十二支に12種の動物を割り当てたものは「十二生肖」と呼び、今日私たちが「えと」でイメージするものと同じです。（表2）

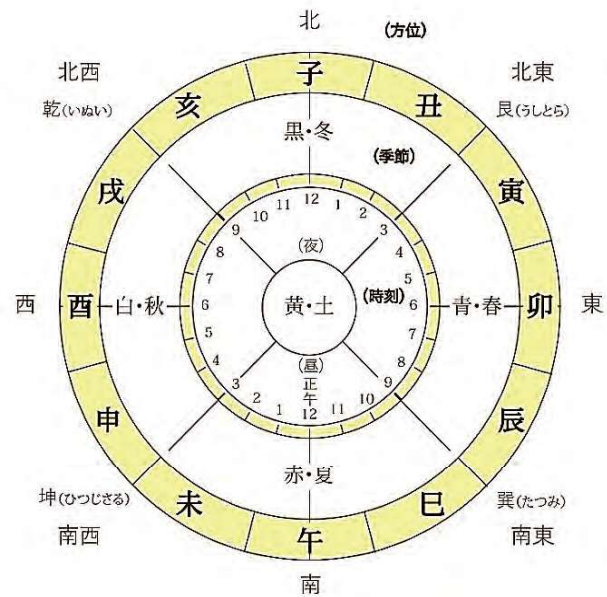


図1 十二支で表した方位や時刻

表2 十二支と十二生肖の対応

十二支	(音読み)	(訓読み)	十二生肖	
子	シ	ね	鼠	ネズミ
丑	チュウ	うし	牛	ウシ
寅	イン	とら	虎	トラ
卯	ボウ	う	兎	ウサギ
辰	シン	たつ	龍	リュウ
巳	シ	み	蛇	ヘビ
午	ゴ	うま	馬	ウマ
未	ビ	ひつじ	羊	ヒツジ
申	シン	さる	猿	サル
酉	ユウ	とり	鶏	トリ(ニワトリ)
戌	ジュツ	いぬ	犬	イヌ
亥	ガイ	い	猪(豚)	イノシシ(ブタ)

【3. 註】

※1
湖北省雲夢県
睡虎地十一号
秦墓『日書』
※2
王允『論衡』
物勢篇

令和7年（2025）は甲子から数えて42番目

	十干	十二支	干支
表記	乙	巳	乙巳
(音読み)	いつ（おつ）+	し	→ いっし
(訓読み)	きのと	み	きのとみ



【表1の表記凡例】
数字：干支番号（昇順）
音読み／訓読み

令和7年の
十二生肖は
「ヘビ（蛇）」

まとめ 一日本の「えと」って何？

今日私たちがイメージする日本の「えと／干支」とは、次の項目が入り交じったものといえます。

- ① 漢字表記は、「十干」と「十二支」を組み合わせで省略した「干支」
- ② 内容は、十二支に当てはめた12種の動物「十二生肖」
- ③ 呼び方は、十干の陰陽の分類時の呼称「兄（え）」・「弟（と）」